



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

毎年最終四半期（1～3月）はその年度の内に対処しておくべきことと、次年度へ向けた準備を始めていくことが重なるため慌ただしく過ぎていくものですが、この1～3月は例年になく大混乱した数か月でした。

財団の状況に端を発しているとは言え、小倉病院に勤める職員の皆さんが大きな不安を持つことになってしまったことは大変残念であり申し訳なく思っております。このことは足元にある大切なものを見落としていたことに他ならないと感じています。

今、財団は回復に向けて大きく舵を切っています。もちろん私たち小倉病院も将来を見据えて舵を切らなくてはなりません。異常事態とも言える現状から抜け出していくためには少なからずの痛みを伴うことになるでしょう。しかし今、この時点から全職員が前を見て団結していくことが不可欠です。できる限り短い時間で元の姿に戻るために、管理者としてできることは何でもやっていく覚悟しております。

私たち小倉病院は財団を支える太く大きな柱の一つです。その誇りを見失うことなく目の前の課題に取り組んでいきましょう。職員の皆さんのご協力を心からお願い申し上げます。



表紙写真

写真タイトル：「北アルプスを望む」

撮影者：樋口 孝

写真コメント：アルプス公園と城山公園中間にある鳥居山の展望台より、晴れていて眺望の良かった北アルプスを撮影しました。



お正月 行事

2-3病棟 三九郎

平成28年1月13日（水）に三九郎のレクを行いました。午前中は、農場でやぐらを組み立てる班と、喫茶室で繭玉を作る班に分かれて作業を行いました。やぐらは、竹を骨組みにし、藁や年始に書いた書初め、松飾り等で組み立てました。喫茶室では、3色の繭玉とおしるこを作りました。繭玉は熱いうちに丸めないと固くなってしまいますが、皆さん手際よく作業をされ、あっという間に数十個の繭玉ができました。



午後はいよいよ点火です。今年、年男の患者さんに点火をしてもらおうと勢いよく燃えだし、パーン、パーンと竹の鳴る音が響きました。火が小さくなったところで柳の枝に刺した繭玉を焼きました。



おやつには食堂へ集まり、三九郎の話、今年の干支申年生まれの人の特徴等の話を聞き、繭玉とおしるこの試食をしました。

1-3病棟 羽子板的当て大会

平成28年1月27日（水）に羽子板的当て大会を行いました。紅白に分かれて、一富士・二鷹・三茄子をモチーフにした絵に向かって羽子板で羽を突き、羽が落ちた場所の絵によって点数を競うというルールで行いました。どちらのチームの患者さんもとても楽しそうに的当てを楽しんでいました。



的当てをした後は、お餅の代わりにワンタンの皮を使ったお汁粉を食べました。体を動かしてお腹も膨れたのか、とても好評なレクになりました。

2-3病棟 節分

平成28年2月3日（水）に節分レクを行いました。午前中は、バレンタインデーも近いということで、マシュマロにチョコレートでデコレーションし、午後食べるおやつを作りました。



午後のレクではまず、職員から節分の由来や、内容などの話を聞きました。すると、どこからともなく3人の鬼が看護主任を人質に入ってきました。看護主任を助ける為、紅白玉を投げ、鬼を追い払い、無事に救出に成功しました。皆さん、真剣な顔で鬼に投げ、大盛り上がりでした。

おやつは、見た目もかわいく、喜んでいる方もいました。3色の中で、ピンクのイチゴ味のチョコマシュマロが人気でした。



こだまの会

平成28年2月24日（水）に1-1病棟のホールで朗読ボランティア『こだまの会』のみなさんによる紙芝居や本の読み聞かせが開催されました。



今回は、5名の方に来院していただき、「かさこ地蔵」を紙芝居で、「目黒のさんま・したきりすずめ」を読み聞かせで披露していただきました。



かさこ地蔵では、じょいなじょいなという掛け声に合わせて、患者さんも一緒になって楽しんでおられました。どのお話も、語りに感情が込められていて、患者さんは聞き入っているようでした。

手遊び歌では、歌に合わせて手を使った体操を楽しんでいました。季節の歌は、「北国の春」「春が来た」「春の小川」など春の歌を5曲、大きな声と一緒に歌いました。



ももの節句



ミサトピア小倉病院には7段のお雛飾りがあります。春に近付き、女性患者さんの割合の多い2-2病棟と2-3病棟のホールにおひなさまを飾り、病棟内が華やかになりました。

2-3病棟では平成28年3月2日（水）にひなまつりレクを行いました。まず、職員が「うれしいひなまつり」「早春賦」を演奏し、患者さんと一緒に歌いました。キーボード・二胡・篠笛・リコーダーによる演奏はとても好評で、アンコールをいただきました。



次に、ひなまつりの由来の話を聞き、クイズをして盛り上がりしました。なぜ、ひなまつりに蛤のお吸い物を飲むのか、五人囃子の並び順の秘密など、「なるほどー」と思うことばかりで勉強になりました。



今回のおやつは、甘酒プリンです。甘酒と牛乳を混ぜ、ゼラチンで固め冷やす。カラメルをかけ完成です。見た目はただのプリンですが、甘酒のいい香りがして、「おいしかったです。」と、こちらも好評でした。

第50回長野県精神科病院協会職員研修会

平成28年2月27日（土）安曇野スイス村サンモリッツにおいて、長野県精神科病院協会職員研修会が開催されました。

研修会は3部構成になっており、第1部各参加病院の職員による研究発表・第2部『高齢化が進む精神医療にどう備えるか 実践と提言』というテーマのシンポジウム・第3部『精神科病院の未来を考える ～地域移行支援の取り組みから見てくるもの



～』という演題の特別講演が行われました。当院からは、7名参加し、看護師が『精神科療養病棟における認知症患者のケア』について発表を行いました。

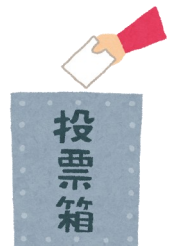
県内の精神科病院から数多くの研究発表がされ、今後の取り組みや患者さん・ご家族への支援の参考になる研修会でした。今後も、この研修会への参加・発表を続けていくことの必要性を感じました。



松本市長選挙 不在者投票

当院では、選挙の投票日に、病状が思わしくない・単独での外出ができないなどの理由のため、地域の投票所へ行くことができない患者さんに対して、不在者投票施設の指定を受け対応しています。

平成28年3月13日の松本市長選挙では、21名の患者さんが、院内の大会議室と各病棟において、不在者投票を行いました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

今年は、例年なみの大雪が無く、雪かきをした回数が少なく暖冬傾向を多少感じています。暖かい日が、日を追うごとに増えてきて、春がもう直ぐだろうという感じがします。

今年度、この安曇野日和を4回発行出来たのは、広報委員全員の努力であって、委員の協力が無ければ、発行出来なかったであろうと痛切に感じています。

樋口 孝